

PG4UWMC – マルチ・プログラミング・コントロール・パネル

Pg4uwMC プログラムは1台のコンピュータのUSBポートに接続されたBeeProg, Beeprog+, BeeProg2C, 又は、BeeProg2を4~8台まで、又は、BeeHive4+, 又は、BeeHive204を2台接続して8サイトでのマルチプログラミングを行うことができます。

n x BeeHive204AP-AU
n x BeeHive204AP
n x BeeHive204
n x BeeHive4+
n x BeeHive4
n x BeeProg2P
n x BeeProg2/BeeProg2C/BeeProg+/BeeProg

Pg4uwMCは大量の生産のための操作を簡単にモニターすることが目的です。Pg4uwMCのフレンドリー・ユーザー・インターフェースは多くの強力な機能を使い易く結合されていますので、全ての重要な動きとプログラミング結果の概要を提供しますので、詳細に注意を払う必要がありません。

Pg4uwMCはマルチプログラミング・システムを制御するためにプロジェクト・ファイルを使用します。プロジェクト・ファイルにはユーザー・データ、チップ・プログラミング・セットアップ情報、チップの設定データ、自動プログラミング・コマンド・シーケンス等を含んでいます。プロジェクト・ファイルは通常は技術者によって作成され、それがオペレータに渡されますので、従って、操作エラーを最小化することができます。

オプションのプロテクト・モードはプロジェクト・ファイルが不用意に変更されることを防ぐためにセットすることができます。各チップはシリアル番号、設定と校正情報の様な異なったデータをプログラムすることができます。

Pg4uwMC ソフトウェアの使用

Pg4uwMC プログラムは下記のメイン・ウィンドウで構成されます。:

1. PG4UWMCメイン・ウィンドウ
8サイトの場合:

Site	Status	Serialization
#1	—	
#2	—	
#3	—	
#4	—	
#5	—	
#6	—	
#7	—	
#8	—	

```
L0005: Welcome to Elnec PG4U/WMC Multiprogramming Control Panel.
L0006: Version 3.04t/04.2014.
L0007: Today is 07.04.2014, 14:08:01.
L0008:
L0009: Processor: Intel (6/5/5) Frequency: 3197\3274.52 MHz
L0010: Operating system: Windows 7 (v6.1, Build 7601: Service Pack 1).
L0011: Physical RAM memory: 2048 MB or more.
L0012:
L0013: >> MC: Log file created at 07.04.2014 14:08:03
L0014: Log file name: C:\Users\User\AppData\Roaming\Elnec\Pg4uw\report
L0015: Log file mode: Append
L0016:
L0017: >> MC: 07.04.2014, 14:08:04
L0018: Searching for connected programmer(s)...
L0019: Following programmer(s) detected:
L0020: BeeHive204 (S/N: 1177-01344)
L0021: Site #1 (S/N: 1180-06839, status: present)
L0022: Site #2 (S/N: 1180-06840, status: present)
L0023: Site #3 (S/N: 1180-06841, status: present)
L0024: Site #4 (S/N: 1180-06842, status: present)
L0025: BeeHive204 (S/N: 1177-01343)
L0026: Site #5 (S/N: 1180-06835, status: present)
L0027: Site #6 (S/N: 1180-06836, status: present)
L0028: Site #7 (S/N: 1180-06837, status: present)
L0029: Site #8 (S/N: 1180-06838, status: present)
L0030: Programmer(s) successfully detected on USB.
```

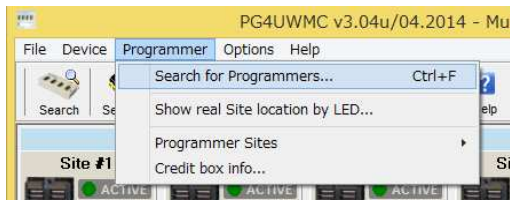
Statistics	Value
Success:	0
Opr. failure:	0
Other failure:	0
Total:	0

Count down: **Disabled**
Remains: 0 of 0

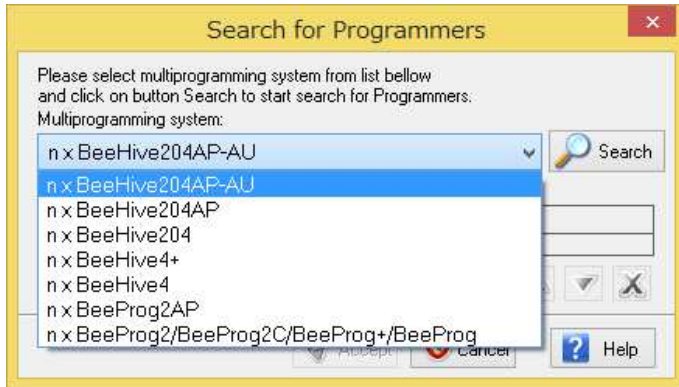
Checksum: x8-S
Next serial value:

Device: Greenliant GLS29EE512 [PLCC32] Project file: C:\Temp_od_mrazeka\greenliant\H136-112-365TJS_GLS29EE512.eprj

メニューのProgrammerをクリックしますと下記の画面になります。



Search of programmersをクリックしますとそこで使用するプログラマーを選択することができます。



選択の後、下記のボタンでプログラマーの接続を行って下さい。

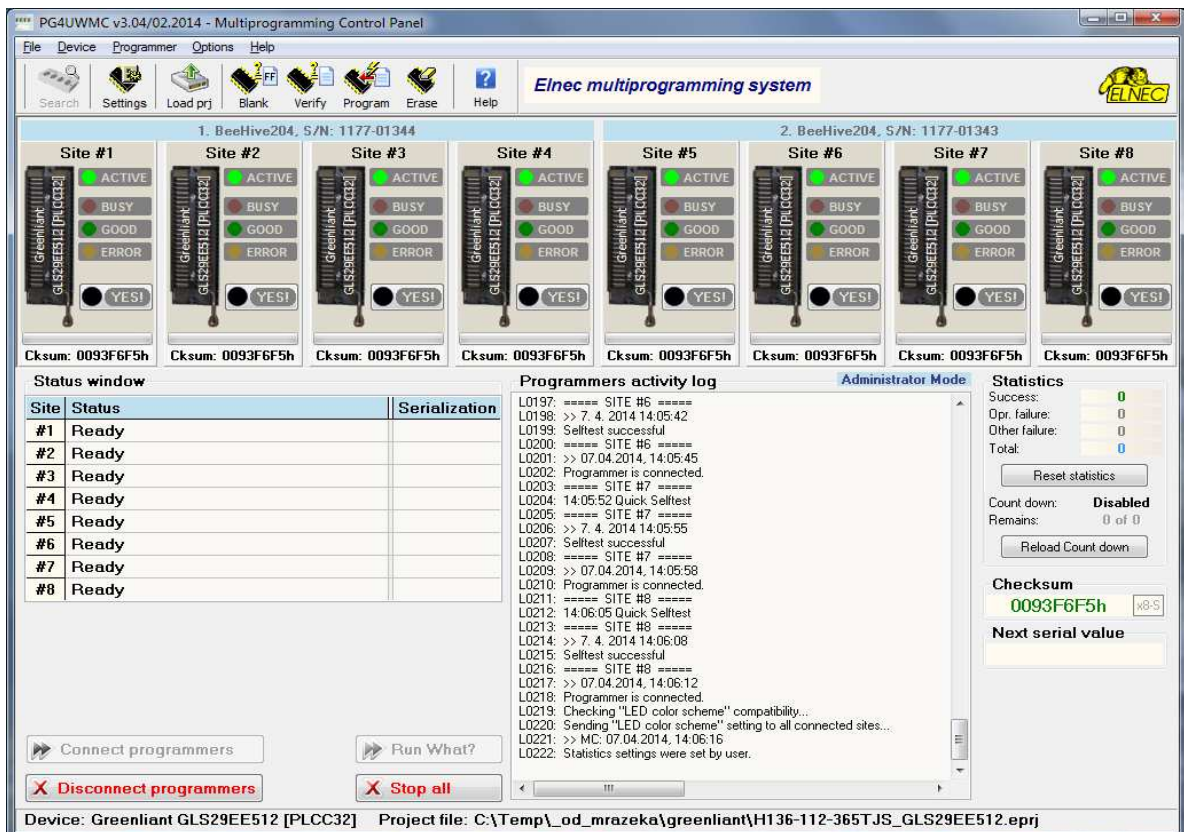


Connect programmers - 全ての選択されたプログラマーのサイトの接続に使用されます。このボタンは通常 PG4UWMCが開始された後の最初のステップで使用されます。

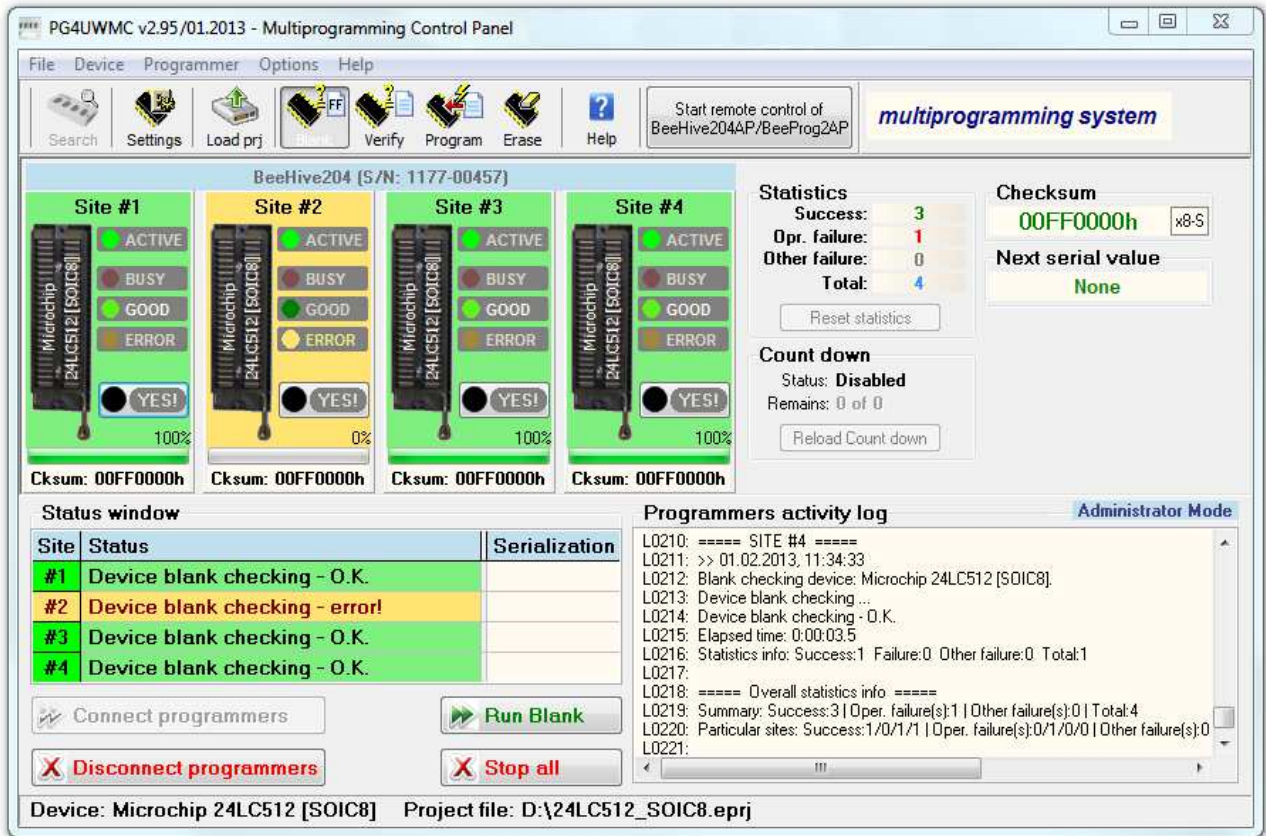
Disconnect programmers - 全ての選択されたプログラマーのサイトの接続を切断するために使用されます。このボタンは任意のサイトでデバイス操作が行われていない場合のみ適応されます。

8 サイト使用時のパネル・ステータス・ウィンドウ画面

Readyはサイトがアクティブでありプログラマーが接続されていて操作されていないことを示しています。ブランクはサイトが接続されていないことを表示しています。



4サイト使用時のサンプル画面

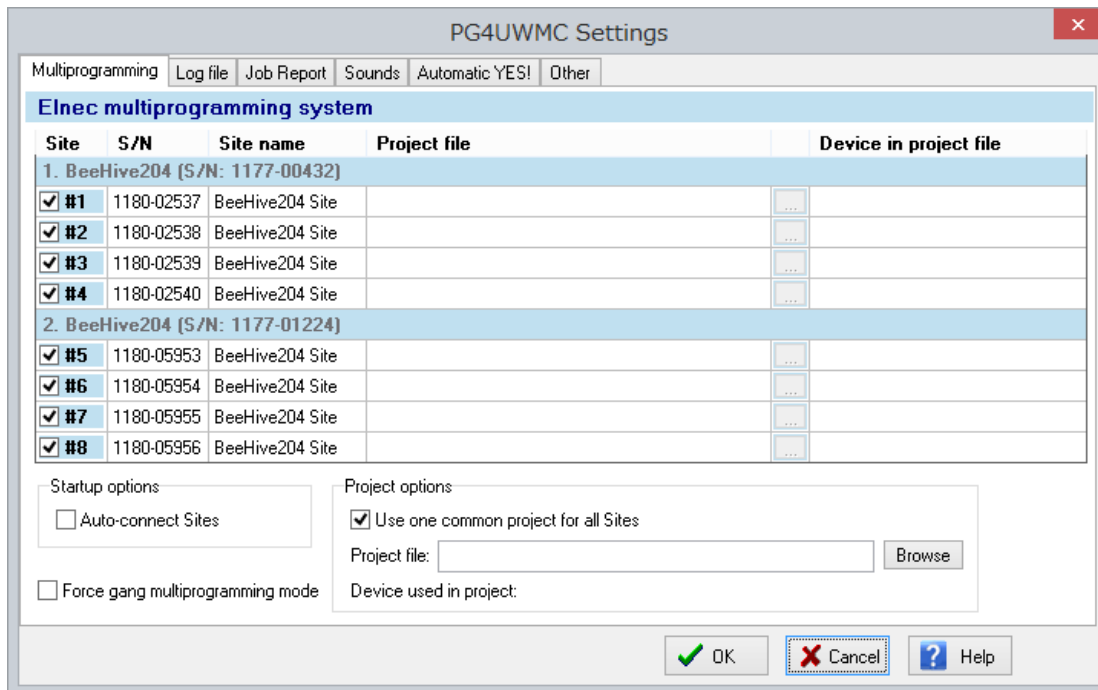


使用しないサイトはそのサイトの上で右クリックしますとポップアップ・ウィンドウが出ますので、“Disconnect Programmer Site”をクリックして接続しなで下さい。

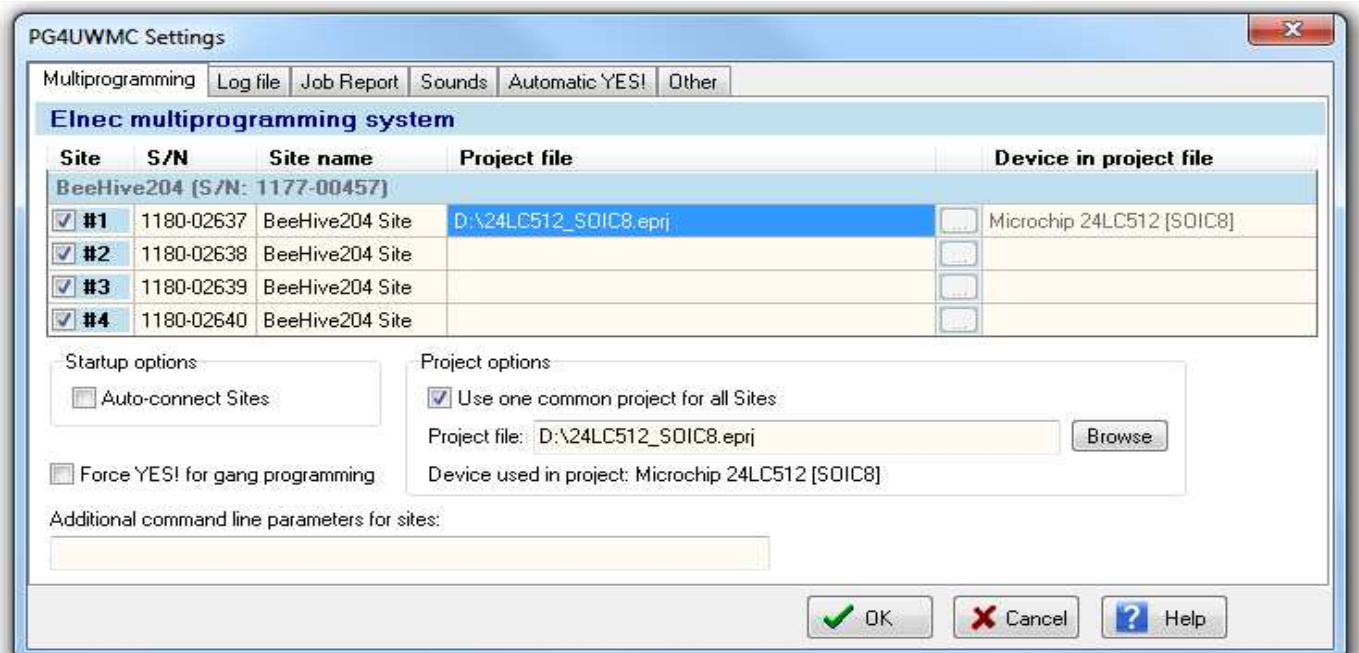


2. PG4UWMCセッティング・ダイアログ・ウィンドウ

8サイトのサンプル画面：

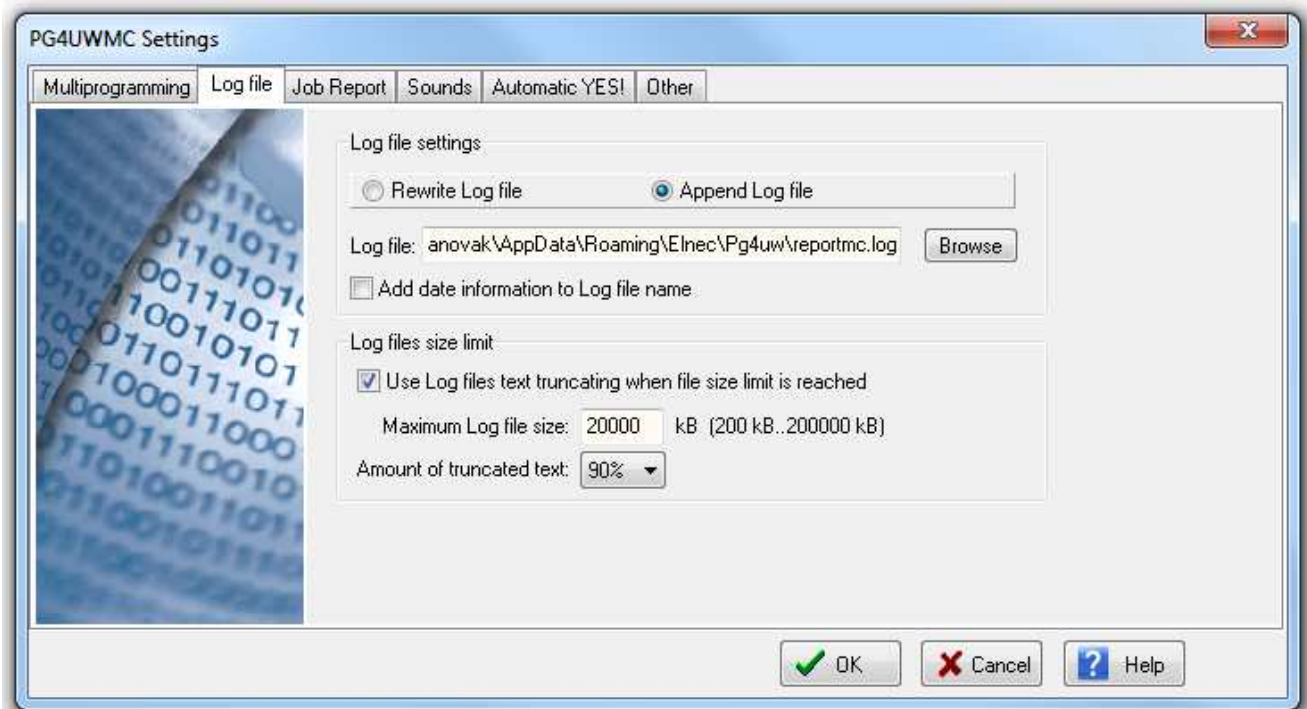


4サイトのサンプル画面：



"Use one common project for all Site" にチェックを入れますと、他の全てのサイトに Site#1 のプロジェクト・ファイルが反映されます。このモードでは全てのサイトは同じプロジェクト・データのバッファを使用し同じデバイス・タイプをプログラムします。チェックが入れられてない場合は各サイトはProject fileの欄のサイトのテーブル内の名前により定義されたプロジェクト・ファイルを使用します。

Log file settingsはログ・ファイルのレポートに使用されます。



ログファイルはロードするプロジェクト・ファイル、デバイス操作タイプとデバイスの操作結果についての情報を意味しPG4UWMC制御プログラムの動作フローについての情報を含むテキスト・ファイルです。

マルチプログラミング・システムは幾つかのログファイルを生成します。PG4UWMCのプログラムの1つのメイン・ログ・ファイルと各実行されているプログラマー・サイトのためのログ・ファイル。各サイトはそれぞれの独自のログファイルを持っています。サイトのログファイルの名前は編集ボックスで指定されたログファイルの名前と同じ接頭辞を持っています。ファイル名の接頭辞は_#<Snum>のフォームでサイトの番号が続いています。

サンプル:

ユーザーにより指定されたログ・ファイル名: "report.log". そうしますとログファイルの名前は:

- PG4UWMCメイン・ログ・ファイル名 - "report.log"
- サイト#1 ログファイル名 - "report_#1.log"
- サイト#2 ログファイル名 - "report_#2.log"
- サイト#3 ログファイル名 - "report_#3.log" 等々...

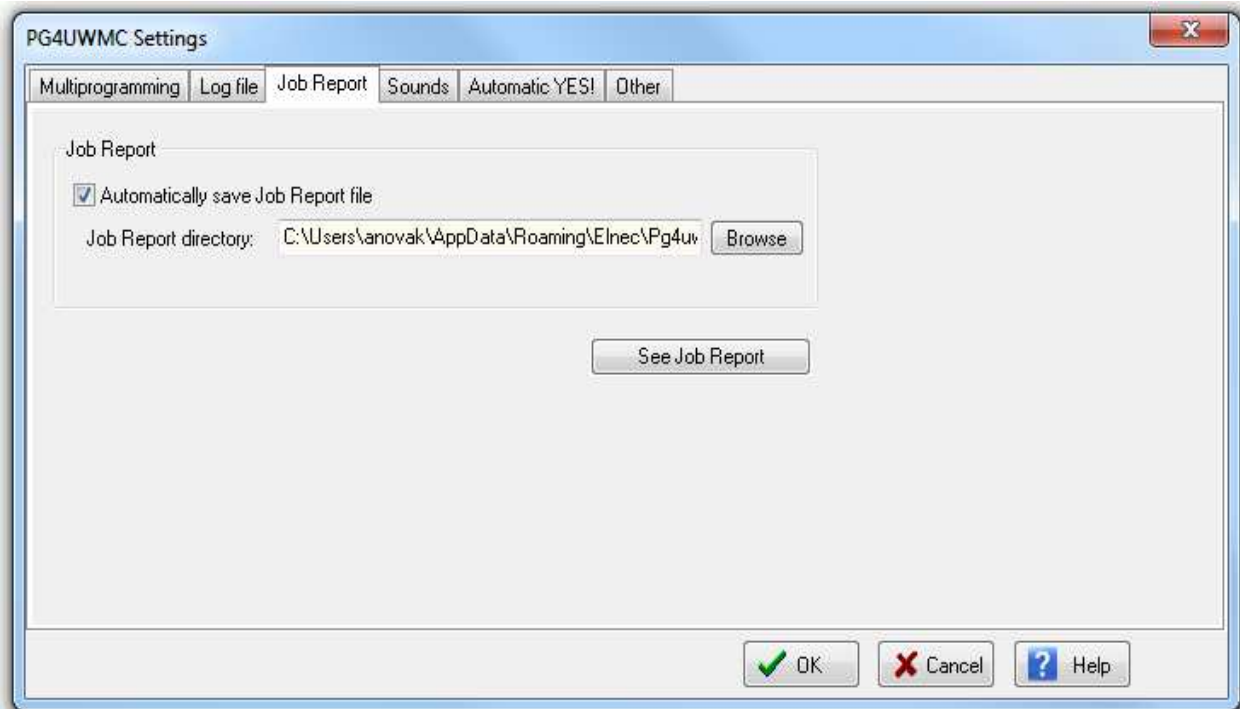
Job ReportセッティングはJob Reportを使ってモードのセットに使用されます。

Job Reportは最後にデバイス操作された概要を現わしています。Jobはプロジェクト・ファイルに関連づけられ、新しいプロジェクトがロードされ操作が開始されるか、又は、プログラムPG4UWMCを閉じることを意味します。

Job Reportは次の情報を含んでいます:

- project name
- project date
- プロジェクト・モード・ステータス
- PG4UWMCソフトウェア・バージョン
- プログラマー名とシリアル番号
- Jobの実行の開始時間(Load project操作が実行された時間)
- Jobの実行の終了時間(Job Reportが作成された時間)
- デバイス名
- デバイスのタイプ
- checksum
- デバイス操作オプション
- シリアルライゼーション情報
- 統計情報

Job Reportダイアログ・セッティング



Automatically save Job Report fileチェック・ボックスがチェックにされた時はJob Reportは自動的に指定されたディレクトリーに次の様にセーブされます。

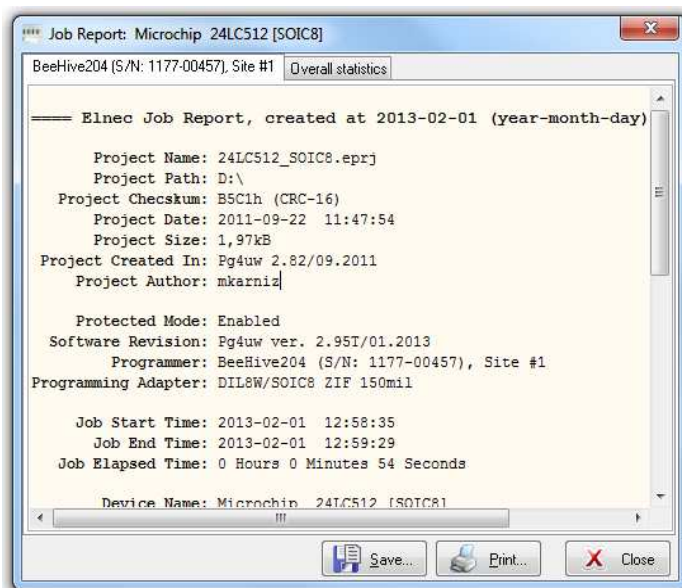
job_report_<ordnum>_<projname>.jrp

<ordnum>はファイルの順番です。もし、同じ名前の既存のリポート・ファイルがある場合、新しいリポートは既存のファイルの順番でインクリメントされます。

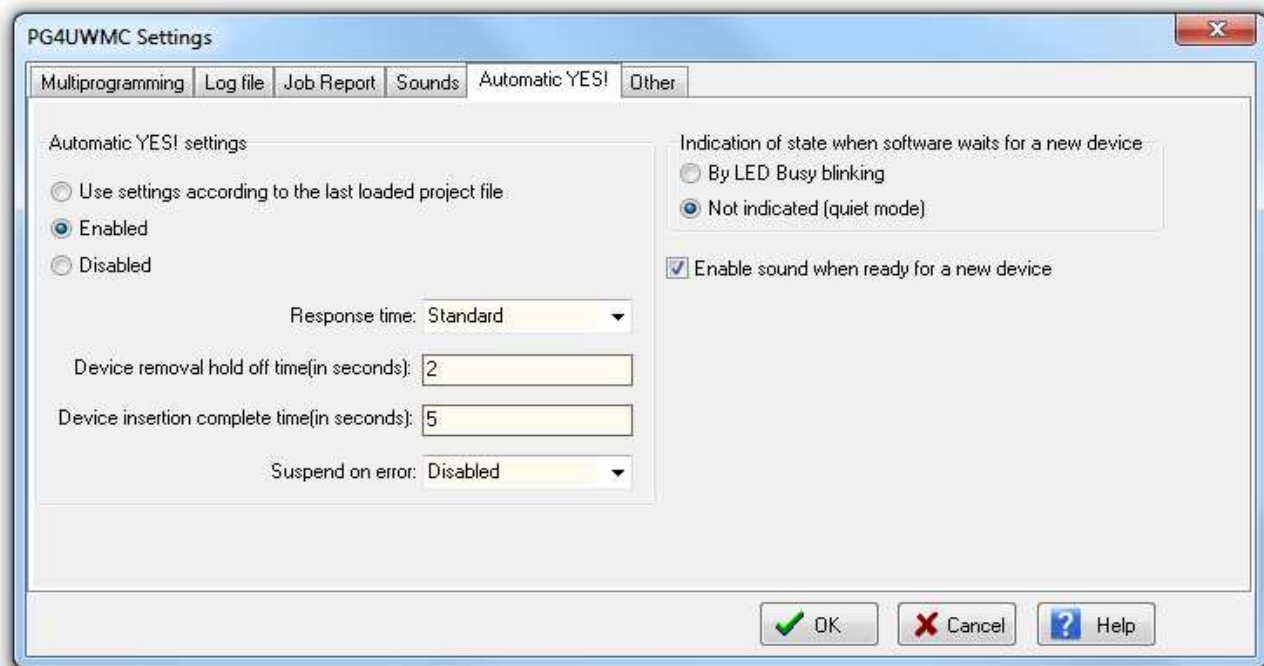
<prjname>は最後に使用されたプロジェクトのプロジェクト・ファイル名です。拡張子は付きません。

Automatically save Job Report fileがセットされているとき、Job Reportが生成されるとき、Job Reportダイアログは現れません。新しく生成されたJob Reportはダイアログやメッセージなしでファイルにセーブされます。

Automatically save Job Report fileチェック・ボックスにチェックが入られていない場合はPG4UWMCは必要な時にJob Reportダイアログを表示します。



Automatic YES! セッティング



このモードではプログラムされたデバイスを外して、ZIFソケットに新しいデバイスを入れることで最後の操作が自動的に繰り返されます。

プログラムは自動的に新しいデバイスの挿入を検出して任意のキーやボタンを押さずに最後に実行された操作を実行します。ZIFへのデバイスの挿入はスクリーンに表示されます。反復操作の実行はZIFへからデバイスを挿入/取り外しを待っている間にキー<Esc>を押すことでキャンセルされます。

必要 PC システム

推奨 PC システム(マルチ・プログラミング):

- Microsoft Windows® Vista/Windows 7/8/10(32bit, 又は、64bit)
- PC インテル Core 2 Quad以上
- 2GB RAM
- 空容量 2GB
- USB ポート: 2.0 ハイ・スピード(USBポートが利用可能なプログラマー)
- Pg4uwMCでのマルチ・プログラミングにはTCP/IPによるネットワーク・アダプターがサポートされている必要があります。詳しくは次ページをご覧ください。

ノート:

マルチプログラミングを目的としたUSB プログラマーの接続はPCのUSBポートに直接接続して下さい。そして、USB ポートはコンピュータの裏側にあるものをお選び下さい。もし、不完全なUSB ポートしか利用出来ない場合はUSB2.0ハイ・スピード転送をサポートし電源供給されたUSB ハブを推奨します。SMC 2504 チップ セットを持ったUSB ハブを推奨します。

マルチ・プログラミングのためのネットワーク・アダプター

Pg4uwMC でのマルチ・プログラミングには TCP プロトコルがインストールされたネットワーク・アダプターが必要です。ネットワーク・アダプターは仮想(Microsoft Loopback Adapter)、又は、実際のネットワーク・アダプタ(正しいドライバーがインストールされたネットワーク・アダプター)が必要です。もし、ネットワーク・アダプターがインストールされていない場合は、少なくともバーチャル Microsoft Loopback ネットワーク・アダプターをインストールして下さい。

仮想 Microsoft Loopback アダプタのインストール(下記は Windows XP の例です。):

1. スタートをクリック
2. コントロール・パネルを選択
3. コントロール・パネルで“クラシック表示に切り替える”をクリック(“カテゴリの表示に切り替える”にして下さい。)
4. “ハードウェアの追加”をクリック
5. “ハードウェアの追加ウィザード”の“次へ(N)>”ボタンをクリック
6. “最近コンピュータに接続されましたが、未だインストールされていないハードウェアを検索しています”と表示され、“ハードウェアは接続されていますか?”のダイアログが現れますので、“はい、ハードウェアを接続しています(Y)”をクリックし、“次へ(N)>”ボタンをクリック
7. “新しいハードウェアデバイスの追加”をクリックして、“次へ(N)>”ボタンをクリック
8. “ウィザードで、ほかのハードウェアをインストールできます。”が現れますので、“一覧から選択したハードウェアをインストールする”をクリックし、“次へ(N)>”ボタンをクリックして下さい。
9. “次の一覧からインストールするハードウェアの種類を選択してください。”のリストから“ネットワークアダプタ”をクリックして、“次へ(N)>”ボタンをクリックして下さい。
10. 左パネル“製造元”で“Microsoft”を選択
11. 右パネルから“Microsoft Loopback Adapter”を選択し、“次へ(N)>”ボタンをクリックして下さい。
12. “ハードウェアをインストールする準備ができました。”の画面で“次へ(N)>”ボタンをクリックして下さい。
13. これでアダプターはインストールされました。